

二. 事業の概要 ～ 事業計画の達成報告

① 大学等拡充計画の推進

(A) 大学に関する事業

本学は、平成31年4月保健衛生学部理学療法学科を改組し、新たにリハビリテーション学科を開設し、理学療法学専攻(入学定員40名)と新設の作業療法学専攻(入学定員40名)の2専攻を設置しました。超高齢社会となり、理学療法士・作業療法士を増やすことは、多くの医療機関において喫緊の課題となっています。患者数に対して十分な治療を提供できていないリハビリテーション分野で、地域包括ケアの一翼を担える人材を養成し、こうしたニーズに量・質ともに応えるためリハビリテーション学科を2専攻体制としました。保健衛生学部の教育研究目的に基づき、リハビリテーション諸科学、医学等に精通し、社会人、職業人、国際人として生涯にわたって自己研鑽できる理学療法士および作業療法士を養成することを目的とします。作業療法学専攻は、県内の大学では初めての設置となります。

また、保健衛生学部鍼灸サイエンス学科に「鍼灸・スポーツトレーナー学専攻」と「鍼灸学専攻」の2つの専攻を開設しました。新設の「鍼灸・スポーツトレーナー学専攻」では、1年次から3年次の授業でスポーツに関連する教養と技術を習得することで、日本トレーニング指導者協会(JATI)と全米エクササイズ&スポーツトレーナー協会(NESTA)の2団体のスポーツトレーナーの受験資格が得られます。将来、鍼灸師とスポーツトレーナー資格を合わせ持つことで、スポーツ選手や健康運動実践者への鍼灸治療、リハビリ、さらにはコンディショニング等のきめ細かい指導を行うことができ、科学的に日々進歩しているスポーツや運動分野で貢献できる鍼灸師の育成を目的に開始しました。

【小児リハビリテーション室】



【トレーニングルーム】



(B) 大学院に関する事業

平成 30 年 4 月医療科学研究科医療科学専攻に、臨床心理学分野（修士課程）を開設し、国家資格となった公認心理師を養成するカリキュラムをスタートしました。学部では医療福祉学科臨床心理学専攻で公認心理師養成のカリキュラムを導入し、学部 4 年間と大学院修士課程 2 年間の 6 年間で公認心理師を目指すことができます。

また、平成 31 年 4 月医療科学研究科医療科学専攻に、看護学分野（修士課程）を開設しました。看護学分野では、広い視野に立ち専門分野の学識を深め、科学的な思考力及び実践力、教育、指導力を養い社会に貢献できる高度な看護実践者や臨床教育者を育成します。

② 大学広報の強化

県内や東海地区に止まらない全国展開を視野に入れた効果的な広報の充実化を図るため、受験生の動向分析、広告広報の費用対効果の測定、テレビ・新聞等のマスメディアを利用した県内外への積極的な広告・PR 活動の展開、新設学科・専攻の情報発信の強化、SNS (LINE, Instagram, Facebook) での情報発信と学生募集活動等を行いました。

○受験生の動向分析

「アクセスオンライン」（資料請求者管理システム）と「受験者情報」から平成 29 年度と平成 30 年度高校卒生を抽出し、動向分析を行いました。

○広告広報の費用対効果の測定

【公式 SNS (LINE/Instagram) の開始】

平成 30 年 3 月下旬より受験生向け公式 SNS の運営を開始し、現在の Instagram ユーザー（フォロワー）数 202 名、line 友達数 552 人を獲得することができました。

【大学ホームページ】

以下のサイトを立ち上げ、ホームページの充実化を図りました。

「大学ホームページのリニューアル」、「女子学生寮・学生指定寮のリニューアル」

「資格紹介サイト」、「作業療法学専攻 特設サイト」、

「鍼灸・スポーツトレーナー学専攻 特設サイト」、「オープンキャンパス 特設サイト」

- ・ ページビュー数：「2.79%」増加（平成 29 年 753,505 ページ：平成 30 年 774,518 ページ）
- ・ 直帰率：「-26.16%」減少（平成 29 年 66.75%：平成 30 年 49.29%）

○マスメディアを利用した県内外への積極的な広告・PR 活動の展開について

県内報道機関へ、本学の教育・研究・社会貢献活動に関する情報発信を随時行いました。

新聞広告やメディアへの掲載に於いては、特に新設学科・専攻についての積極的な広報を行いました。

・ プレスリリース投稿：計 20 件（左記のうち、取材件数：計 39 社）

・ メディア掲載状況：計 60 件 ※上記 39 社を含む

（テレビ 15 社／新聞 40 社／雑誌 5 社）

・ 新聞広告／メディア協賛：計 19 件

○新設学科・専攻の情報発信の強化

大学ホームページに新設 2 専攻の特設サイトを開設し、専攻の概要や特長についての周知、および志願者拡大に向け、最新情報を発信し、平成 30 年 10 月には、新聞社対象に「新設学科・専攻 開設説明会」を実施しました。

○SNS (LINE, Instagram, Facebook) での情報発信と学生募集活動等

平成 30 年 3 月下旬から運営を開始した公式 SNS (LINE/Instagram) を利用し、オープンキャンパス、入試情報、学生生活を中心とした積極的な情報発信を行いました。

- ・LINE : 26 件 (メッセージ 16 件、タイムライン 10 件)
- ・Instagram : 28 件

大学ブランドカアップのため、大学の取り組み・教育・研究の成果を発信するため、産学官連携や関連職能団体との取り組み、市民公開講座、学生生活活動や、「教育・研究の成果」、「地域貢献活動」などの内容をホームページに分かり易く掲載し、積極的な情報発信を行いました。

② 教育内容の充実

「クラウド型教育サポートシステムの導入」

- ・学生一人ひとりのための学修サポート体制を全学で具体化するため「学修サポートシステム」を導入しました。各教科の予習・復習や国家試験対策の反復学習により、自ら学びやすい環境を整え学修指導の充実を図り活用していきます。

「医療人底力教育など本学の特色ある教育の更なる充実」

- ・本学の特色ある教育「医療人底力教育」では、平成 26～29 年度までの 4 年間の底力教育の実施により、初年次教育としての底力教育の役割が明確化され、「医療人底力教育」の授業方法・授業内容を他大学にない本学独自の効果的な教育にするために、カリキュラムの見直しを行い、学生に分かりやすく、学習効果を上げるための工夫を図りました。加えて平成 29 年度より始まった三重大学医学部との共同授業「慢性疼痛チーム医療養成プログラム」は、国の中間評価において「A」判定を受け、同じ「慢性の痛みの領域」で事業を行っている 3 大学の中では一番良い評価を受けました。

「社会福祉法人サムス会との協働」

「医療人底力実践 (基礎 I)」(全学科 1 年次必修科目)で行われている体験学習の一環として、平成 30 年度後期、1 年生全員が「桜の森白子ホーム」を訪問し、高齢者とのコミュニケーション方法やマナーなどを学びました。また、2 年生以上においても、学外実習の一領域として実施する学科や、ボランティア活動に参加する学生など多方面で協働しました。

③ 学生支援の強化

平成 29 年度に導入された「SUMS ポイント」への積極的な参加を促し、制度を周知するために関連情報をホームページ、学生要覧等に掲載し、学生全体へのメール配信、ガイダンス等での

告知を行いました。この制度をきっかけに、学内外の活動に積極的に取り組むことで、他者に貢献する活動を通し広く高い社会性を身につける意識の醸成に努めました。

④ 高大連携・地域連携・産学官連携の推進

平成 29 年度に締結した鈴鹿工業高等専門学校との本学の学術研究交流に関する協定に沿って、SUMS-NITS 医工連携研究会の定期的開催、医工連携共同研究の推進を図りました。両高等教育機関のそれぞれの特色を生かした医学・工学の分野における学術研究連携を学術研究の定期的情報交換会（研究会）や共同研究、科研費の申請を実施しました。

また、一般社団法人三重県薬剤師会と本学との間で締結した包括協定に基づき、地域医療への貢献並びに薬学生の育成と薬剤師のスキルアップ教育等について連携して活動を推進していくため、平成 30 年 10 月に薬局薬剤師等在宅医療研修施設（シミュレーション・ラボ）を白子キャンパス 1 号館に開設しました。シミュレーション・ラボには県薬剤師会が購入したフィジコなどのシミュレーター機器、聴診器などのバイタルサイン用の機器類、医療材料・医療機器類等、臨床検査機器などを設置し、協同して県内薬局・病院薬剤師が在宅医療などで必要とする技術を修得するための研修会を開催しました。

モバイルファーマシーについては、薬学生の事前実習（4 年次生後期必修科目）において紹介し、大規模災害が発生した時に求められる薬剤師の役割について考える体験型演習を行いました。

その他大学の研究を身近な存在として活用していただけるように 18 の公的機関・企業、支援団体・金融機関に全学シーズ集を配布しました。

○ 平成 30 年度の受託・共同研究の入金額は、24,015 千円。（平成 29 年度 22,547 千円）

○ 平成 30 年度に交付を受けた文部科学省科学研究費補助金（間接経費を含む）は、68 件 81,640 千円（平成 29 年度 57 件 62,478 千円）

特に本年は、学内で構築してきた超高齢化社会における健康寿命延伸に向けた革新的な取り組みである研究内容を文部科学省科学研究費助成事業 挑戦的研究（開拓）に応募し、応募件数 894 件、採択率 9.8% の超難関の中、国立の研究所・大学と並び私立大学では唯一、本学の研究課題が選定され、研究を開始しました。

【シミュレーションラボ】



【モバイルファーマシー】



⑤ 国際交流の推進

天津中医薬大学(中国天津市)、中国医薬大学(台湾台中市)と鍼灸サイエンス学科、コンケン大学(タイ)と薬学研究科との交流

天津中医薬大学(中国)と鍼灸サイエンス学科は定期的な交流が確立されています。

平成30年12月1～2日に第5回日本薬膳学会学術総会を開催し、中国全土から30名が参加しました。大学施設、特に看護学科や医療栄養学科、また、桜の森白子ホームやロボットスーツ HAL を見学していただきました。最終日は日本体験デーとし、和服・お茶・お花・和食の体験を通じて日本文化を紹介し、交流を図りました。

- ・鍼灸サイエンス学科では、平成31年3月17日～21日に学生15名、教員2名が中国研修に参加しました。訪問先の天津中医薬大学において、臨床実習、講義、薬膳研修等を実施しました。

⑥ 財務基盤の充実

平成30年11月、他大学の学納金の状況を調査し比較検討することで、学納金の見直しを図り、学納金の改正(令和2年度入学生からの適用)を決議しました。

また、教育分野での補助金(私立大学等改革総合支援事業;タイプ1教育の質的転換)の増額や研究分野での補助金の新規獲得などにより、補助金収入の増加を目指しました。私立大学等改革総合支援事業;タイプ1教育の質的転換についての補助金は、調査方法が見直され厳しい条件となり、当初は84点中51点(60.7%)でしたが、教員へのシラバス修正依頼、GPA制度見直し、FD推進委員会等への学生代表出席、TAに対する研修会開催、ティーチング・ポートフォリオ作成などを全学挙げての協力のもと、76点(90.5%)まで引き上げた結果、採択されました。

⑦ 施設設備の改修

- ・作業療法学専攻の設置に伴う改修工事として、A講義棟の一部を改修し実習室2室、JART記念館の一部を改修し実習室2室、ゼミ室8室、教員研究室8室を整備しました。
- ・鍼灸サイエンス学科鍼灸・スポーツトレーナー学専攻の設置に伴う改修工事として、体育館に本専攻専用のトレーニングルーム・更衣室等を整備しました。
- ・大学院医療科学研究科看護学分野の修士課程開設に伴う改修工事として、白子キャンパス4号館3階に講義室1室、実験室1室、演習室1室、院生室2室を整備しました。

<両キャンパス設備更新 他>

- ・千代崎キャンパス実験実習棟2・3階、A講義棟空調設備更改を完了しました。
- ・千代崎キャンパス受電設備更新工事4か年計画(2年目)を実施しました。
- ・白子キャンパス講堂屋上防水改修工事(2年目)を実施しました。

⑧ その他

薬学部（6年制薬学教育プログラム）は、平成30年度、一般社団法人薬学教育評価機構による薬学教育評価を受けました。そのため薬学科自己点検・評価委員会と協働し、自己点検評価書、機構の定める調書および基礎資料を整え、本評価受審に伴う手続き、申請書類提出、および訪問調査の準備・対応を行いました。

本評価の結果、『薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合している』との認定を受けました。その結果は、本学のステークホルダーを初め社会に広く公表することを目的に、大学のホームページに公表しました。

なお、本評価の認定期間は、令和元年4月1日から令和8年3月31日までの7年間。